

1. 計画の概要について

計 画 名	新潟県における公共交通機関の維持整備に関する計画		
答申主体	(旧)新潟地方交通審議会 新潟県部会		
策定年月	平成8年8月	目標年月	2005年
対象交通	鉄軌道、バス、タクシー、航空、(観光)等		
対象地域 / 計画の構成	○新潟県全域とし、県外及び交通圏域間交通のほか、6つの交通圏(下越、新潟、中越、魚沼、上越、佐渡)を設定し地域交通を検討 ○計画の構成 ・公共交通機関の維持整備の具体的なあり方 1. 地域の実情に応じた公共交通機関の維持及び確保、2. 車社会の課題の解消、3. 公共輸送サービスの質的高度化への対応、4. 高齢者、障害者等の「交通弱者」への対応、5. 観光需要への対応、6. 情報化への対応、7. 冬季の対応、8. タクシーの積極的活用 ・広域交通に関する事項 1. 県外交通、2. 交通圏域間交通 ・地域交通に関する事項 1. 各交通圏共通の施策、2. 下越交通圏、3. 新潟交通圏、4. 中越交通圏、5. 上越交通圏、6. 佐渡交通圏		

２．計画のレビュー（総括）

視点１：人々のモビリティを確保し、暮らしを支える公共交通の維持整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○生活バス路線の維持確保への取組み ○タクシーの積極的な活用 ○利用しやすい鉄道輸送の確保 ○離島航路の整備 ○離島航空路の整備	○新潟県では、Ｓ58年度から生活交通確保対策で県単独補助を開始し、Ｈ14年度に見直されている。Ｈ13年には「生活交通確保対策協議会」を設置されている。また、生活交通確保のため、Ｈ11～12年度で過疎地域における調査研究、Ｈ13～14年度で中山間地域等におけるモデル的な取組みを支援、15年度で中山間地域等における相互扶助システム支援を行っている。 ○Ｈ14に中山間地域ＩＴＳデマンドバス実証実験が行なわれた。 ○川口町、高柳町において過疎型乗合タクシーが運行されている。 ○Ｈ11年度に新潟交通電車線、蒲原鉄道が廃止され、代替バスが運行されている。 ○佐渡汽船は7年に新船「こがね丸」、粟島汽船は4年に新船「あわしま」を投入している。また、夏季においてはどちらも増便運行されている。 ○佐渡空港の滑走路の2,000m化整備を推進している。

視点２：都市活動を支え、利便性が高く、信頼性の高い公共交通の整備

主な課題や実施する施策	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○ 公共交通の利用環境の改善 ○ バス利用の利便性の向上 ○ バスロケーションシステム等の導入 ○ マイカー交通による交通渋滞の緩和	○ 新潟駅連続立体化事業や新津駅、亀田駅、豊栄駅の橋上化を計画している。 ○ 新潟市の万代島再開発に伴い、バス・タクシーの運行ルート、アクセス、バスベイが設置されている。 ○ 県内市街地を中心にバス専用レーンが 11 区間、バス優先レーンが 6 区間、バス専用道が 2 区間整備されている。 ○ 循環バスは、新潟市内の循環路線バス、加茂市の市営循環バス、柏崎市では「かざぐるまバス」市街地循環 100 円バス、聖籠町町営の町内循環バスが運行され、試行実験を含めて 10 市町村で実施されている。 ○ H13 の FIFA コンフェデレーションズカップ、H14 の FIFA ワールドカップ新潟大会では、I T を利用した総合交通情報提供システムを実施している。 ○ 新潟市内の国道 113 号、116 号と一部の高速バスで、バスロケーションシステムが導入されている。 ○ 新潟都市圏 T D M 施策推進委員会を中心に、総合的な T D M 施策を展開することとしている。

視点3：地域の自立を保障し、地域内交流・連携を促進する公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○ 地域内鉄道の高速化	○ 「新潟県鉄道整備促進協議会」において、上越新幹線の利用促進に向けた取り組みを行っている。 ○ 羽越本線高速化・新幹線直通化の実現に向け、JR 東日本、山形県と検討会を開催。 ○ 上越新幹線の県内区間のみの列車は、上下各 1 本運行されている。
○ 地域内高速バス路線網の整備	○ H14 年 10 月現在、新潟県内高速バスは、新潟～上越（15）新潟～糸魚川（3）新潟～十日町（5）新潟～長岡（36）新潟～柏崎（12）新潟～東三条（20）新潟～弥彦（6）新潟～燕（6）新潟～巻（16）新潟～新飯田（3）新潟～村松（9）新潟～津川（3）新潟～上川（1）長岡～上越（6）の 14 路線が運行され、当北陸信越地域内の高速バスは、新潟～金沢（2）新潟～長野（2）の 2 路線が運行されている。 ○ 日本海東北自動車道の整備により、新潟～村上線（4）が新設された。
○ 地域内高速バス路線網へのアクセス	○ 北陸自動車道等で、高速バスの停留所付近に無料駐車場を整備して、パークアンドライドを推進している。

視点 4：地域に活力を与え、他地域との交流連携を強化する広域高速交通ネットワークの整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○ 広域鉄道の高速化 ○ 広域高速バス路線網の整備 ○ 航空路の充実 ○ 空港へのアクセス改善	○ 上越市の新幹線駅周辺整備の一環として、新幹線・在来線の接続改善のため在来線駅の移設を検討している。 ○ H14、10 現在、新潟県発着便高速バスは、首都圏とは新潟～池袋（昼 7 夜 1）上越～池袋（昼 2 夜 1）京阪圏とは新潟～大阪（夜 1）東北では新潟～仙台（昼 6）新潟～山形（昼 2）新潟～会津若松（昼 4）が運行されている。 ○ 日本海東北自動車道の整備により、新潟～山形間が時間短縮された。 ○ 新潟空港から国内線（1 日当り）大阪（6）札幌（4）福岡（2）名古屋（2）広島西（1）女満別（季節運航）旭川（季節運航）那覇（季節運航）が運航されている。 ○ 新潟空港へのアクセスについては、上越新幹線直行乗入れ方式の検討のほか、羽越本線高速化・新幹線直通化と連携した取組みや、貨物線を活用したアクセスについても検討している。 ○ 新潟駅から空港へのシャトルバスが、往 25 便、復 23 便運行されている。この路線バスに ITS を活用した運行の円滑化、高度化について検討されている。 ○ 長岡駅から新潟空港へ高速バス直行便が 1 便運行されている。

視点5：海外との有機的な交流の促進に資する交通ネットワークの整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
- 国際航空路の充実 - 空港へのアクセス改善	- 国際定期便として、現在、新潟空港発ハバロフスク（週2）、ウラジオストク（週2）、ソウル（週5）、ハルビン（週4）、グアム（週2）、イルクーツク（運休中）、上海・西安（週2）、ホノルル（運休中）の8路線ある。 - 新潟県「交通政策大綱」で上海・西安線、グアム線の増便、ホノルル線については通年化の拡充を目指し、東南アジア、欧州、北米、豪州方面路線についての開設を目指している。 - 国際線チャーター便は、H14年度101便の実績となっている。 - 新潟空港の3千メートル化へ取り組まれている。 - 新潟空港へのアクセスについては、上越新幹線直行乗入れ方式の検討のほか、羽越本線高速化・新幹線直通化の取り組みや、在来線との接続によるアクセスについても検討している。 【再掲】 - 新潟駅から空港へのシャトルバスが、往25便、復23便運行されている。この路線バスにITSを活用した運行の円滑化、高度化について検討されている。【再掲】 - 長岡駅から新潟空港へ高速バス直行便が1便運行されている。【再掲】

視点 6：個性ある地域づくり、観光振興と一体となった公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○ 地域観光振興を支える公共交通の整備 ○ 国際観光支援	○ 新潟県では自治体と観光・交通業界で「うるおいの新潟大型観光キャンペーン」を組織し、誘客事業を実施している。 ○ 佐渡では、自治体と観光・交通業界で「佐渡観光アクションプラン」を策定し、佐渡の観光、交通アクセス等の整備、活性化について検討された。 ○ 県の「長期総合計画」では、高速道や鉄道等を導線とした沿線市町村の連携強化を図るとともに、観光地・リゾート地相互の連携促進や、観光客の誘導・案内看板の整備、情報サービスの充実等が上げられている。 ○ 北越急行で、車内星座映像システム「ゆめぞら号」を土・日・祝日に運行している。 ○ H14 年の FIFA ワールドカップ新潟大会では、シャトルバスの運行や上越新幹線の深夜運行等を実施した。 ○ 県の「長期総合計画」では、主要な国道・県道にローマ字併記の行き先案内標識及び路線番号標識を設置していくこととなっている。 ○ 県では国際定期便として、上海・西安線、グアム線、ホノルル線の拡充と、東南アジア、欧州、北米、豪州方面路線の開設を目指している。【再掲】

視点7：誰もが利用しやすく、快適でシームレスな公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
交通旅客施設等のバリアフリー化の推進	- 新潟県内鉄道駅では、1日利用者5千人以上の施設は16駅で、6.25%バリアフリー化実施済み。また、ほくほく線では六日町駅、十日町駅、ほくほく大島駅で実施済み。 - JR 東日本では、新津駅、亀田駅、豊栄駅等のバリアフリー化や橋上化の計画あり。 - 新潟駅連続立体交差事業をはじめとする駅周辺整備を計画 - 新潟交通の万代シティ、駅前ターミナルにおける段差の解消、傾斜路の設置、視覚障害者に対する点字表示は整備されている。 - 佐渡汽船ターミナルでは、身体障害者用トイレ、乗降設備、誘導ブロック等が整備されている。
交通旅客車両等のバリアフリー化の推進	- H15.3 末現在、超低床ノンステップバス18台、ワンステップバスは67台導入されており、県内乗合バス総数1,012台中85台（導入率8.4%）となっている。 - 北越急行で、車椅子スペースのある鉄道車両は14編成中12編成に導入済み。
福祉タクシー等の導入	軽福祉タクシーは、県内26事業者で33台が導入されている。
乗り継ぎのシームレス化	バスカードが県内高速バスでは全線導入、一般路線バスでは新潟交通が全線導入済み。

視点 8 : 環境にやさしい公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
- マイカー交通における環境負荷の低減 - マイカー交通から公共交通への利用転換	- 新潟交通では路線バスのアイドリングストップ車両の導入を図っており、H15、5 現在で 439 台中 133 台導入済み。 - H13、3 に策定された「新潟県地域新エネルギー導入推進計画」において、導入目標を立てて、県民に対する普及啓発と公共施設での率先導入を図っている。 「新潟都市圏 T D M 施策推進委員会」を中心に、総合的な T D M 施策を推進している。また、他の都市圏においても、その実施状況や効果等を踏まえて推進することとしている。 - 北陸道 7 ケ所、関越道 2 ケ所、上信越道 1 ケ所、磐越道 3 ケ所、日東道 2 ケ所での高速バス停留所でパークアンドライド駐車場の整備を行っている。 - 県交通政策大綱において、都市近郊の鉄道駅やバスターミナル、高速バス停でパークアンドライド駐車場や駐輪場の整備を推進するとともに、利用の普及啓発を推進することとしている。

視点 9：気象・災害に強い安心安全な公共交通の整備

主な課題等	主な課題等を解消するために取り組んだ施策及び現状について
○ 冬季における安全輸送の確保 ○ 事故の無い安全な交通体系の推進	○ 県交通政策大綱の中で、冬季の生活交通確保を「冬の交通バリアフリー」と位置づけ、移動の円滑化を図っている。 ○ 県社会資本整備目標の中で、雪崩・落石・地震等による交通防災対策や地震対策を進めることとしている。また、長期総合計画において、交通障害発生時には臨時交通規制を実施し、二次災害防止とともに、的確な交通情報の提供を図ることとしている。 ○ 各市町村から交通圏中心都市・隣接市町村までの複数ルートは確保されている。